

むきぼんだ花だより 1月

2015. 1. 10

車を降りる頃霧雨が降ってきた。工場の屋上から明彩の鮮やかな太い虹が右の空に伸びていた。振りかえると虹の右端は送電線の鉄塔の根元に着地していた。両端が地球に接した半円形の虹だ。朝早く、太陽が低いせいだろう。道を進むと屋上にあった虹の左端は、道路の向こう側に移っていた。濃い明彩の虹の外側には、淡く透けた虹がもう一本、寄り添うように見えていた。



タブノキ



アカガシ

青谷上寺地遺跡において結合式のヤスが発掘され、弥生時代に、タブノキがヤスの柄として利用されていた。(鹿の角のヤス先をタブノキの中柄に糸状のものでくくりつけている)
黄八丈(八丈島の草木染)の黄色はカリヤス、鶯色はタブノキ、黒色はスタジイの樹皮(タンニンを含む)

名は材が赤みを帯びていることに由来する。板目も美しい。ドングリのおわんは横縞模様。灰汁が少なく食べられる。

「冬ざれや鴉の一羽さへ見えず」

もと



ゴンズイ

材は何の役にも立たず、魚のゴンズイの名にならってつけられたとも言われている。



ゴンズイ



ナナカマド

ナナカマドは生長が遅く、材質はすこぶる堅い。このため、七回竈(カマド)にくべても燃え尽きず、ナナカマド(七竈)と呼ばれるようになった。実は果実酒になる。



コナラ

コナラとは「小さなナラ」という意味。ナラの名前の由は「鳴る」であるとされ、吹く風に葉がふれあい、音を出すことに基づく。樹液にはカブトムシがくぐる。ドングリのおわんは網目模様。



トチノキ

実はタンニンやサガニンを含み渋みや苦みが多いが、多くのデンプンを含むため灰汁抜きをすれば食用となる。



トチノキ



ネジノキ

幹がねじれていることから名がついた。木炭は漆器を磨くために用いられる。



ソヨゴ

秋には直径7~8mmの赤い実がなる。ソヨゴの名は「風にそよぐ木」に由来する。雄株と雌株がある。ソヨゴは葉の縁が波うっている。



カラスザンショウ

カラスがこの実を好んで食べると言われている。若くて小さい木ほどトゲが多い。トゲはシカやウサギから身を守るため、木が大きくなるとトゲが無くなる。花の蜜をもとめてアオスジアゲハやモンキアゲハがくる。



タラノキ

新芽は山菜の王者でテンプラ、ゴマツあえなどに利用される。樹皮・根の皮は肝臓病、糖尿病に効果がある。



クロマツ

樹皮は厚く灰黒色で、亀甲状の鱗片となり、はがれる。海辺に多く、新芽は白っぽいのが特徴。



アカマツ

樹皮の色は赤灰色で、亀甲状の鱗片となり、はがれる。樹皮と新芽が赤褐色が特徴。アカマツ林ではマツタケが取れる。



コブシ

秋には幼児のにぎりこぶしに似た形の果実を結ぶことからこの名がついた。花が咲く頃、各地で田仕事が始まる。つぼみは漢方で蓄膿症や鼻炎などの処方に使われる。



ソメイヨシノ

オオシマザクラとエドヒガンの雑種である。



ウツギ

陰暦の4月(卯月)に花が咲き、花の白い色をうさぎにたとえて、「卯の花」とも呼ばれている。ウツギ(空木)の名は幹が中空である事に由来する。また、この材で釘を作って打ち込むから「打つ木」とする説がある。



ムベ

「延喜式」にオオムベの果実を朝廷へ献じたとある。果実は熟しても口を開かないが、アケビと同様に食べられる。



クマノミズキ

ミズキの葉が互生なのに対してクマノミズキは対生である。三重県の熊野で最初に見いだされたので熊野水木(クマノミズキ)と名がついた。



イワガラミ

つるから木根を出して樹や岩によじのぼるためイワガラミの名がついた。イワガラミは花のガク片が一枚である。



クロモジ

★むきばんだを歩く会★

- 指導：鷲見寛幸先生（鳥取県自然観察指導員）
- 毎月第1土曜日午前9時30分～正午
- 入会金 2000円 毎回資料代 300円 いつでも、どなたでも入会可能です
- 問い合わせ：むきばんだ応援団「むきばんだをあるく会」 0859-68-5945（松本）